

箕面市立病院

清掃業務仕様書

箕面市立病院

I 章 一般事項

1. 目的

本委託は、医療法第20条の規定に基づき病院内環境の清潔保持を図ることで環境感染を防止し、患者に快適で安全な療養環境を提供すると共に、建物を適切に維持管理することを目的として施行するものである。

2. 対象施設及び施設概要

2-1 所在地・名称

- 1) 箕面市萱野5丁目7番1号 箕面市立病院
- 2) 箕面市萱野5丁目1番2号 箕面市立病院医師住宅

2-2 施設概要

別添① 施設一覧のとおり

3. 業務内容

3-1 業務範囲

- 1) 対象施設内の清掃・清潔保持業務
- 2) 対象施設における敷地及び建物外部の清掃業務
- 3) 業務に関する品質管理
- 4) 業務従事者に対する教育訓練
- 5) その他業務に付帯する事項

3-2 業務日及び業務時間

1) 業務日

委託期間中全日

2) 業務時間

① 箕面市立病院

7時から19時の間常駐して業務を行うこと。ただし、施設の特殊性を配慮し、医療業務等に支障をきたさない時間帯において、能率的、効果的に各区域毎の業務を実施すること。なお、各区域毎の業務時間は区域の管理責任者と協議して決定すること。

② 医師住宅

7時から17時の範囲で業務を行うこと。

4. 一般事項

本仕様書その他、みのおライフプラザ複合施設管理業務委託基本仕様書（以下「基本仕様書」という。）を適用する。

5. 業務関係者の配置基準

- 1) 受注者は、業務に必要な人員を適正配置すること。
- 2) 受注者は、責任者及び副責任者をあらかじめ選任し常駐させること。また、従事者の中から業務区域毎の責任者を選任すること。
- 3) 受注者は、以下の場合には当該業務を他の者で応援させることができる。ただし、応援させる時は、あらかじめ応援従事者名簿及び従事者経歴書を提出すると共に、公的機関が発行した受注者と従事者の間の雇用関係を確認できる書類を提示し、委託者の承認を得ること。
 - ① 事故等緊急を要する場合
 - ② 従事者に急病等が発生した場合
 - ③ あらかじめ承認された従事者が当該業務に従事できない場合
 - ④ その他応援が必要な場合
- 4) 受注者は、当該業務従事者に配置転換の必要が生じたときは、業務の処理能力に支障をきたさない範囲内で行うものとし、あらかじめ委託者の承認を得ること。ただし、配置転換の結果、業務処理能力の低下が認められる場合、委託者は先の承認を取り消すことができる。

6. 従事者の資格等

- 1) 医療機関という施設の特殊性を理解し、入院患者、付添者、外来患者及び病院職員等に対し、極めて細かい配慮ができること。
- 2) 誠実であり、常に病院を衛生的で美しくしようということに対して、真剣に取り組めること。
- 3) 従事者として受託業務を行うために必要な下記の知識を有する者であること。
 - ① 要求される清潔差が異なる区域ごとの作業方法
 - ② 清掃用具、消毒薬等の使用及び管理の方法
 - ③ 感染の予防
- 4) 副責任者については、上記1)～3)の他、医療機関における清掃業務の実務経験が3年以上あり、施設の清掃に関し相当の知識及び経験を有する者であること。
- 5) 責任者については、上記1)～4)の他、財団法人医療関連サービス振興会指定の病院清掃受託責任者講習修了者及び下記のいずれかの資格を有し、特に指導力があり他の業務従事者を統率できる者であること。
 - ① 建築物における衛生的環境の確保に関する法律（昭和45年4月14日法律第20号）第7条第1項の規定による建築物環境衛生管理技術者免状所持者

- ② 職業能力開発促進法（昭和44年7月18日法律第64号）第44条第1項に規定する技能検定であってビルクリーニングの職種に係るものに合格した者又は免状の交付を受けている者
- ③ 建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則（昭和46年1月21日厚生省令第2号）第25条第2号の規定に基づく清掃作業監督者

7. 提出書類

1) 着手時

- ① 着手届※
- ② 現場代理人・主任技術者届（経歴書共）※
- ③ 年間工程表（年度ごとに提出すること）
- ④ 教育訓練年間計画表（年度ごとに提出すること）
- ⑤ 日常業務スケジュール表
* 区域毎の時間工程を作成すること。
- ⑥ 人員配置計画書（年度ごとに提出すること）
- ⑦ 従事者経歴書
* 日本工業規格に準拠した履歴書に必ず写真を添付すること。
- ⑧ 安全管理体制報告書
* 緊急時の対応・連絡先及び日常の安全管理活動体制について記したもの。
- ⑨ 標準作業書
* 区域毎の標準作業方法等を記したもの。
- ⑩ 業務案内書
* 業務内容及び作業方法等を記したもの。
- ⑪ 業務品質等を証明する書類
* 国際標準化機構（ISO）制定の品質保証規格（ISO9001:2000又はISO9001:2008）の認証を取得していることを示す書類。
- ⑫ 関連資格の登録等を証明する書類
* 財団法人医療関連サービス振興会による院内清掃業務に関する医療関連 サービスマーク認定証書の写し。なお、建築物における衛生的環境の確保に関する法律（昭和45年4月14日法律第20号）第12条の2第1項第1号による建築物清掃業登録、同項第8号による建築物環境衛生総合管理業登録など、その他業務に関連する登録等を有している場合はそれらを証明する書類の写し。
- ⑬ 従事者の必要資格を証する書類
* 建築物環境衛生管理技術者免状所持者、清掃作業監督者、ビルクリーニング技能士（職業能力開発促進法（昭和44年法

律第64号)第44条第1項に規定する技能検定であってビルクリーニングの職種に係るものに合格した者又は免状の交付を受けている者)、病院清掃受託責任者講習修了者の免状、資格者証、講習修了証書等、必要資格を証する書類の写し。

⑭ 使用機材一覧表

* 清掃用カート、ポリッシャー、真空掃除機、洗濯機、乾燥機等使用機材のメーカー名・型式・台数などを記したもの。

⑮ 使用資材一覧表

* 消毒薬、洗剤、ワックス等使用資材のメーカー名・品名などを記したもの。

2) 施行中

① 各業務予定表(週間・月間・期間)

② 各業務報告書(日報・週報・月報)

③ 施工写真(施行後に確認が困難なものについて随時提出)
(カラーサービス版アルバム整理/デジタル写真可)

④ 研修実績報告書

⑤ 応援従事者名簿

⑥ 応援従事者経歴書

(日本工業規格に準拠した履歴書に必ず写真を添付すること)

3) 完了時

完了届※

4) その他

Ⅱ章 業務要領に示す書類及び委託者の指示するもの

* 注 意

① 提出書類のサイズは原則としてA4版とする。

② 提出部数は原則として1部とする。

③ ※印の書類は委託者の指定様式とする。

④ 着手時提出書類については、契約期間中記載事項に変更が生じた場合、そのつど対象となる書類を再提出すること。(着手届は除く)

8. 業務の習得及び引き継ぎ

1) 受注者は委託業務の履行開始日から円滑に業務が行えるよう、従事者の業務習得及び前受注者からの業務引き継ぎの期間を設けること。

2) 受注者が受託業務契約を終了する場合(契約書の規定に基づき契約が解除された場合も含む)は、新たに業務を受託する者に円滑に業務を引き継がなければならない。

3) 上記、1)、2) に要する費用はすべて受注者の負担とする。

9. その他必要事項

- 1) 業務遂行上必要な諸室、備え付け備品等は委託者が貸与する。
- 2) 諸室及び作業等で利用した光熱水費等は委託者の負担とする。
- 3) 上記1)～2) 以外の経費、及び業務遂行上必要な資機材（消耗品類、機材類）他は受注者の負担とする。
- 4) 病院の各施設に対して、適切な資機材を使用し、建物、設備、備品等を損傷しないように十分注意して業務を遂行すること。なお、人体に悪影響があるもの及び引火性、発火性がある資材は、原則として使用しないこと。

Ⅱ 章 業 務 要 領

1. 清掃管理区分

1-1 病院建物内

環境感染を防止するため建物内を清浄度に応じて区域分けし、区域ごとに清掃手順・機材等を区別することで汚染の拡散と伝播を防止する。なお、区域分けの詳細は表1を参照のこと。

表1 清浄度区分ごとの区域一覧

清浄度 クラス	区域名称	主 な 該 当 場 所
Ⅱ	清潔区域	手術室、配盤室、手洗室、無菌廊下、器材衛生材料室、無菌製剤室、無菌病室など
Ⅲ	準清潔区域	手術室周辺区域（観察室・準無菌廊下・更衣室など）、ＩＣＵ、分娩室、未熟児・新生児室、調乳室など
Ⅳ	一般清潔区域	診察室・処置室、Ｘ線撮影室、内視鏡検査室、生理検査室、調剤室、詰所、一般病室、ラウンジ、浴室、清潔リネン室、厨房、食堂、ホール、廊下など（各室内の洗面・便所を含む）
Ⅴ	汚染管理区域	中材洗浄室、ＲＩ管理区域各室、感染症病室、陰圧診察室、採血室、検査部各検査室（生理検査室除く）、遺伝子検査室、栄養部下処理室、洗面・便所、解剖室など
Ⅵ	一般区域	各事務室、会議室、物品倉庫、玄関（風除室）など
Ⅶ	汚染拡散防止区域	不潔リネン室、汚物処理室、共用便所、集塵室、霊安室など

病院空調設備の設計・管理指針 HEAS-02-2013 に準ずる（調理施設については、「大量調理施設衛生管理マニュアル」（平成29年6月16日付け生食発0616第1号）による）

1-2 医師住宅

表1の一般区域（レベルⅥ）に準じる。

1－3 敷地内及び建物外部

場内通路・駐車場・駐輪場等の敷地及び付属施設部分と、屋上・ベランダ等の建物外部に区分する。

2. 作業基本項目

2－1 日常清掃

対象施設内外において定例的に行う通常の清掃・清潔保持業務であり、下記項目について、9. 清掃業務実施基準表に基づき実施する。なお、作業内容の詳細は、3. 日常清掃作業要領及び、5. 詳細作業方法による。

1) ごみ回収

- ◇ ごみ箱のごみ回収・ごみ袋交換
- ◇ ごみ箱の清拭・洗浄
- ◇ シュレッダーの紙屑回収

2) 高所除塵

- ◇ 床頭台の天板
- ◇ ドア上部、棧の除塵
- ◇ 棚、壁面上部の除塵
- ◇ カーテンレールの除塵
- ◇ 壁面取付の掲示板、サイン類の除塵
- ◇ ブラインドの除塵

3) 高所清拭

- ◇ ドア上部、棧の清拭
- ◇ 棚、壁面上部の清拭
- ◇ カーテンレールの清拭

4) 床除塵

- ◇ ハードフロアのドライモップなどによる除塵（一部区域はH E P A付真空掃除機又は真空掃除機を使用可）
- ◇ カーペットフロアの真空掃除機による除塵（必要に応じてH E P A付真空掃除機を使用）

5) 低所・備品清拭

- ◇ 職員の事務用を除く机・椅子の清拭
- ◇ カウンター、案内板等事務機器の清拭
- ◇ ロッカー等備品表面の清拭
- ◇ 壁面、窓台、手摺り、ドア、ドアノブ等の清拭
- ◇ ドア、間仕切り等のはめこみガラスの拭き上げ
- ◇ プラントボックスなどの除塵

6) 水廻りの清拭

- ◇ 洗面台、流し、シャワー、浴槽等（シャワー椅子含む）の清拭

- ◇ 便器等衛生陶器の清拭・消毒
 - ◇ 間仕切り壁、ドアノブ等の清拭
 - ◇ 床の清拭（必要に応じて洗浄）
 - ◇ 鏡磨き
 - ◇ トイレットペーパー、殺菌消毒用手洗い石鹼液等消耗品の補充
 - ◇ 汚物入れの汚物回収、洗浄・消毒
- 7) 床の清拭
- ◇ ハードフロアのウェットモップによる清拭
- 8) 湯飲み洗い
- ◇ 給湯室内の使用済み湯飲み洗浄
- 9) 感染性廃棄物の回収
- ◇ 感染性廃棄物専用容器の回収、空容器のセット
 - ◇ スtockヤードへの搬出
- 10) 敷地内清掃
- ◇ 敷地内屋外部分の掃き掃除及びごみ回収
- 11) 建物外部清掃
- ◇ 屋上、ベランダ、光庭等建物外部の掃き掃除及びごみ回収

2-2 定期清掃

対象施設内外において指定期間毎に行う専門的技術が必要な清掃・清潔保持業務であり、9. 清掃業務実施基準表に基づき実施する。なお、作業内容の詳細は、4. 定期清掃作業要領、5. 詳細作業方法による。

- 1) 床剥離洗浄・ワックス塗布
- ◇ ワックス皮膜の完全除去及び再処理
- 2) 床洗浄・ワックス補修
- ◇ 表面洗浄によるワックス皮膜の補修
 - ◇ スプレーバフ方式によるワックス皮膜の補修
- 3) 床洗浄
- ◇ ポリッシャー等を使用したタイル・石質床の洗浄
- 4) カーペットクリーニング
- ◇ カーペットシャンプーによるクリーニング
 - ◇ シミ取り洗剤によるシミ抜き
- 5) ガラス洗浄
- ◇ ガラスクリーナーによるガラス洗浄
- 6) 照明器具清掃
- ◇ 洗剤液による器具の清拭
- 7) 網戸清掃
- ◇ 網戸の取り外し洗浄

- 8) 壁・天井等高所清掃（防煙垂壁、天井吊下サイン等も含む）
 - ◇ 除塵
 - ◇ 洗剤液による清拭
- 9) 空調吹出・吸込口清掃
 - ◇ 取り外し洗浄（脱着可能なもの）
 - ◇ 洗剤液による清拭（枠及び脱着不可能なもの）
- 10) 敷地内清掃
 - ◇ 雨水溝、雨水会所の沈殿物除去
- 11) 建物外部清掃
 - ◇ 屋上、ベランダ、光庭などの建物外部の土砂等堆積物の除去

2-3 臨時清掃

対象施設内外において日常・定期清掃以外に行う緊急清掃・清潔保持業務であり、委託者の要請に応じて随時実施する。基本作業項目は2-1 日常清掃に準ずる。

2-4 ごみ処理

各清掃作業に伴い発生するごみの運搬・分別・搬出補助の各業務であり、清掃作業と併せて毎日実施する。

- 1) ごみ運搬
 - ① 集塵室へのごみ搬送
 - ② ごみ回収カートの洗浄清掃
 - ③ ごみ貯留装置の運転
- 2) ごみ分別
 - ① 回収ごみの分別確認
- 3) ごみ搬出
 - ① ごみの院外搬出時の立ち会い、積み込み補助

3. 日常清掃作業要領

3-1 清潔・準清潔区域（レベルⅡ・Ⅲ）

- 1) ごみ回収

ごみ箱の中にあるごみをごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、ごみ箱を洗剤液で清拭する。
- 2) 高所清拭

ドア上部、桟、棚、壁面上部、カーテンレール等、室内の天井に近い部分を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭し、目線より上部の埃を取り除く。

なお、壁面や欄間ガラス等垂直部分は目視できる汚れがある場合に清拭する。

3) 床除塵

床面をドライモップを用いて埃を立てずに除塵する。

4) 低所・備品清拭

- ① 職員の事務用を除く机や椅子、カウンター、案内板、ロッカー、電話等備品の表面を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 壁面、窓台、ドア、手摺り、ドアノブ等手の届く位置にある部分を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ ドア・間仕切り等のはめ込みガラスは化学繊維クロスなどで拭き上げる。

5) 水廻りの清拭

- ① 洗面台、流し等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 衛生陶器の内外面、便座（洗浄便座のノズル等も含む）、水栓類、配管等を消毒液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ シャワー・浴室等（シャワー椅子含む）は水垢を洗浄・除去した上で洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ④ 間仕切り等は、水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ⑤ 床面は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。洗浄可能な場所については必要に応じて洗剤で洗浄後水洗いし、モップで水分を拭き取る。
- ⑥ 鏡を磨きあげる。
- ⑦ トイレトペーパー、ペーパータオル、殺菌消毒用手洗い石鹸液等消耗品を必要に応じて補充する。
- ⑧ 汚物入れの中にある汚物をごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、汚物入れを消毒液で清拭する。

6) 床の清拭

床面を洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。

7) 整理整頓

清掃時に動かした備品類を元の位置に戻す。

8) 感染性廃棄物の回収

指定場所に置かれた感染性廃棄物専用容器を回収し、空容器を配置する。

3-2 一般清潔区域（レベルⅣ）

1) ごみ回収

- ① ごみ箱の中にあるごみをごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。また、必要に応じてごみ箱を洗剤液で清拭する。

- ② シュレッダー内の紙屑を取り除く。

2) 高所除塵

ドア上部、棧、棚、床頭台天板、壁面上部、カーテンレール、壁面取付の掲示板・サイン類等、室内の天井に近い部分をモップなどで除塵し、目線より上部の埃を少なくする。また、必要に応じて欄間ガラスを化学繊維クロスなどで拭き上げる。なお、壁面や欄間ガラス等垂直部分は目視できる汚れがある場合に作業を行う。

3) 床除塵

- ① 床面をドライモップを用いて埃を立てずに除塵する。
- ② カーペット面のごみや埃は、真空掃除機を使用し、パイルを起こすようにしながら吸引除去する。

4) 低所・備品清拭

- ① テレビ、電話、職員の事務用を除く机や椅子、カウンター、案内板、ロッカー等備品の表面を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 壁面、窓台、ドア、手摺り、ドアノブ等手の届く位置にある部分を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ ドア・間仕切り等のはめ込みガラスは化学繊維クロスなどで拭き上げる。
- ④ プラントボックス内のごみを除去しモップ等で除塵する。

5) 水廻りの清拭

- ① 洗面台、流し、水栓等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 衛生陶器の内外面、便座（洗浄便座のノズル等も含む）、配管等を消毒液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ シャワー・浴槽等（シャワー椅子含む）は水垢を洗浄・除去した上で水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ④ 間仕切り、浴室の壁などは、水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。また、石鹸垢などが残っている場合は、清拭前に洗浄・除去する。
- ⑤ 床面は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。洗浄可能な場所については必要に応じて洗剤で洗浄後水洗いし、モップで水分を拭き取る。
- ⑥ 鏡を磨きあげる。
- ⑦ ペーパータオル、トイレットペーパー、石鹼液、殺菌消毒用手洗い石鹼液等消耗品を必要に応じて補充する。
- ⑧ 汚物入れの中にある汚物をごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、汚物入れを消毒液で清拭する。

6) 床の清拭

床面を水又は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。

7) 整理整頓

清掃時に動かした備品類を元の位置に戻す。

8) 感染性廃棄物の回収

指定場所に置かれた感染性廃棄物専用容器を回収し、空容器を配置する。

3-3 汚染管理区域（レベルⅤ）

1) ごみ回収

ごみ箱の中にあるごみをごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、ごみ箱を洗剤液で清拭する。

2) 高所除塵

ドア上部、棧、棚、壁面上部、カーテンレール、壁面取付の掲示板・サイン類等、室内の天井に近い部分をモップなどで除塵し、目線より上部の埃を少なくする。また、必要に応じて欄間ガラスを化学繊維クロスなどで拭き上げる。

なお、壁面や欄間ガラス等垂直部分は目視できる汚れがある場合に作業を行う。

3) 床除塵

床面をドライモップを用いて埃を立てずに除塵する。

4) 低所・備品清拭

① 職員の事務用を除く机・椅子、カウンター、案内板、ロッカー、電話等備品の表面を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

② 壁面、窓台、ドア、手摺り、ドアノブ等手の届く位置にある部分を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

③ ドア・間仕切り等のはめ込みガラスは化学繊維クロスなどで拭き上げる。

5) 水廻りの清拭

① 洗面台、流し等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

② 衛生陶器の内外面、便座（洗浄便座のノズル等も含む）、水栓類、配管等を消毒液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

③ シャワー・浴槽等は水垢を洗浄・除去した上で洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

④ 間仕切り等は、水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。また、石鹸垢などが残っている場合は、洗浄・除去する。

⑤ 床面は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。洗浄可能な場所については必要に応じて洗剤で洗浄後水洗いし、モップで水

分を拭き取る。

- ⑥ 鏡を磨きあげる。
- ⑦ トイレットペーパー、ペーパータオル、殺菌消毒用手洗い石鹼液等消耗品を必要に応じて補充する。
- ⑧ 汚物入れの中にある汚物をごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、汚物入れを消毒液で清拭する。

6) 床の清拭

床面を水又は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。また、タイル面は必要に応じて水又は洗剤で洗浄後、モップで水分を拭き取る。

7) 整理整頓

清掃時に動かした備品類を元の位置に戻す。

8) 感染性廃棄物の回収

指定場所に置かれた感染性廃棄物専用容器を回収し、空容器を配置する。

* 注 意

- ① 区域の管理者から指示された特定の部屋や廊下などについては、指定消毒薬を用いて清拭を行うこと。
- ② 感染症病室、陰圧診察室については、5－8項及び病棟管理者の指示に従い作業を実施すること。
- ③ 院内の便所、汚物処理室については、清潔さを強く求めるため、定められた清掃実施基準とは別に、複数回の巡回を実施し、必要に応じ部分清掃を行うことにより、常に清潔な状態に保つよう最善を尽くすこと。

3－4 一般区域（レベルⅥ）

1) ごみ回収

- ① ごみ箱の中にあるごみを取り除き、必要に応じて新しいごみ袋と交換する。また、必要に応じてごみ箱を洗剤液で清拭する。
- ② シュレッダー内の紙屑を取り除く。

2) 高所除塵

ドア上部、棧、棚、壁面上部、カーテンレール、壁面取付の掲示板・サイン類等、室内の天井に近い部分をモップなどで除塵し、目線より上部の埃を少なくする。また、必要に応じて欄間ガラスを化学繊維クロスなどで拭き上げる。

なお、壁面や欄間ガラス等垂直部分は汚れが目立つ場合のみ作業を行う。

3) 床除塵

- ① 床面をドライモップを用いて埃を立てずに除塵する。また、机

の下などドライモップによる除塵が困難な場所が必要に応じて真空掃除機を使用する。

* 玄関(風除室)については自在ほうき又は真空掃除機などを使用して除塵する。

- ② カーペット面のごみや埃は、真空掃除機を使用し、パイルを起こすようにしながら吸引除去する。

4) 低所・備品清拭

- ① 事務用を除く机・椅子、カウンター、案内板、キャビネット、ロッカー、電話等備品の表面を水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 壁面、窓台、ドア、手摺り、ドアノブ等手の届く位置にある部分を水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ ドア・間仕切り等のはめ込みガラスは化学繊維クロスなどで拭き上げる。
- ④ プラントボックス内のごみを除去しモップ等で除塵する。

5) 水廻りの清拭

- ① 洗面台、流し等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 衛生陶器の内外面、便座(洗浄便座のノズル等も含む)、水栓類、配管等を消毒液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ シャワー・浴槽等は水垢を洗浄・除去した上で水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ④ 間仕切り、浴室の壁などは、水又は洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。また、石鹸垢などが残っている場合は、清拭前に洗浄・除去する。
- ⑤ 床面は水又は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。洗浄可能な場所については必要に応じて水又は洗剤で洗浄後水洗いし、モップで水分を拭き取る。
- ⑥ 鏡を磨きあげる。
- ⑦ ペーパータオル、トイレットペーパー、石鹼液、殺菌消毒用手洗い石鹼液等消耗品を必要に応じて補充する。
- ⑧ 汚物入れの中にある汚物をごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。また、必要に応じて汚物入れを洗剤液で清拭する。

6) 湯飲み洗い

給湯室内の使用済み湯飲み類を洗浄する。

7) 床の清拭

床面を水又は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。

8) 整理整頓

清掃時に動かした備品類を元の位置に戻す。

3-5 汚染拡散防止区域（レベルⅦ）

1) ごみ回収

ごみ箱の中にあるごみをごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、ごみ箱を洗剤液で清拭する。

2) 高所除塵

ドア上部、棧、棚、壁面上部、カーテンレール等、室内の天井に近い部分をモップなどで除塵し、目線より上部の埃を少なくする。なお、壁面等垂直部分は汚れが目立つ場合のみ作業を行う。

3) 床除塵

床面をドライモップを用いて埃を立てずに除塵する。

4) 備品清拭

ロッカー等備品の表面を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

5) 水廻りの清拭

- ① 洗面台、流し等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ② 衛生陶器の内外面、便座（洗浄便座のノズル等も含む）、水栓類、配管等を消毒液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ③ 手摺り、ドアノブ、水栓類など直接手の触れる部位は消毒液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。
- ④ 壁面、間仕切り、ドア等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスで清拭する。
- ⑤ 床面は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。洗浄可能な場所については必要に応じて洗剤で洗浄後水洗いし、モップで水分を拭き取る。
- ⑥ 鏡を磨きあげる。
- ⑦ トイレットペーパー、ペーパータオル、石鹼液、殺菌消毒用手洗い石鹼液等消耗品を必要に応じて補充する。
- ⑧ 汚物入れの中にある汚物をごみ袋ごと回収し、新しいごみ袋をセットする。その際、汚物入れを消毒液で清拭する。

6) 床の清拭

床面は洗剤液を含んだウエットモップで清拭する。洗浄可能な場所については、水又は洗剤で洗浄後、モップで水分を拭き取る。

* 注意

区域の管理者から指示された特定の部屋などについては、指定消毒薬を用いて清拭を行うこと。

3-6 敷地内及び建物外部

1) 敷地内屋外清掃

- ① 駐車場・駐輪場・歩車道など、建物内部を除く敷地内全域のごみ及び落ち葉等を除去する。また、必要に応じてほうきなどで掃き掃除を行う。
- ② ごみ箱の中にあるごみを取り除く。

2) 建物外部清掃

屋上、ベランダ、光庭等の建物外部のごみ回収を行う。また必要に応じてほうきなどで掃き掃除を行う。

3-7 ごみ処理

1) ごみ回収

- ① 院内のごみ回収には専用カート等を使用し、委託者の定める分別方法（可燃ごみ・不燃ごみ・ペットボトル・空き缶・空き瓶・プラスチック・医療用金属類・医療用ガラス類・大型ごみ・有害ごみ・段ボール・古紙類の12種類）に従い分別回収する。回収した不燃ごみ及び大型ごみはストックヤード、それ以外のごみは集塵室まで運搬する。
- ② 集塵室に搬入した可燃ごみは、室内に設置しているごみ貯留システム「ゴミック」に投入し、その他のごみは、室内の指定場所に集積する。
- ③ 空になった専用カートの内面は水又は洗剤で洗浄する。また、外面についても1日1回以上、水又は洗剤で清拭もしくは洗浄し常に清潔にしておく。

2) ごみ搬出

- ① 可燃ごみを「ゴミック」からごみ収集車に移送する際に、操作盤を操作し積込を行う。
- ② 搬出後、「ゴミック」のシュート・集塵室床面を水又は洗剤で洗浄する。

3) 処理業者等への引き渡し時の立ち会い

可燃ごみ以外のごみについては、処理業者等への引き渡し時に車両への積み込みの補助・数量の確認を行い、委託者へ報告する。

* 注意

- ① 専用カートを運搬する際は必ず蓋をすること。
- ② エレベーターによるごみの運搬は患者・来院者の移動が多い時間帯を極力避けること。また、緊急用エレベーターは使用しないこと。

従事者はごみ貯留システムの操作手順を熟知し、事故等が発生しないように留意すること。

3-8 感染性廃棄物回収

1) 感染性廃棄物回収

- ① 所定場所に配置している感染性廃棄物専用容器の貯留量を点検し、満杯となった容器を回収すると共に空容器を配置する。なお、巡回点検は毎朝8時頃の1回と昼間1回、夕刻1回、計1日3回を基本とし、病棟などから臨時回収の依頼があった場合は、随時対応する。
- ② 回収した専用容器を院内の感染性廃棄物貯留場に搬送し、容器に排出年月日及び排出場所を記入する。

2) 処理業者引き渡し時の立ち会い

処理業者引き渡し時に、感染性廃棄物への放射性物質混入の有無を測定器具を用いて測定・点検する。また、専用容器の車両への積み込みの補助・数量の確認及び委託者への報告等を行う。なお、測定の結果、放射線量が委託者が定める基準値以上検出された場合は、当該容器の引き渡しは行わず委託者に報告して指示を受けること。

3) 報告

専用容器の排出年月日・場所及び数量を記録し、月1回施設管理者に報告する。

* 注意

感染性廃棄物の取り扱いについては以下に示すとおりとし、自ら汚染源とならないように努め、取り扱い後は必ず衛生的手洗いをを行うこと。

- ① 専用容器の取り扱い時は必ず手袋を着用し、容器の内容物には直接触れないこと。また、原則として内容物の減容や積み替えは行わない。
- ② 回収した専用容器は飛散・流出等の恐れがないように速やかに蓋をして密閉の上、院内所定の貯留場まで搬送すること。なお、所定場所以外での保管は一切認めない。
- ③ 業務に使用する機材はすべて専用のもを使用し、必要に応じて消毒用エタノール等、アルコール系消毒薬で清拭すること。
- ④ 感染性廃棄物の保管は、院内所定の貯留場で行い関係者以外立ち入れないように必ず施錠し廃棄物の散逸、流出及び盗難等の防止に努めること。また、保管場所の清潔の保持に努めること。
- ⑤ 感染性廃棄物専用容器・運搬用台車・測定器具（サーベイメーター）は施設管理者が支給するものを使用すること。

4. 定期清掃作業要領

4-1 床剥離洗浄・ワックス塗布

1) 備品整理

床頭台、椅子、ロッカーなどの備品類を可能な限り整頓、もしくは他の場所に移動する。

2) 床除塵

床面をドライモップを用いて埃を立てずに除塵する。また、ドライモップによる除塵が困難な場所が必要に応じて真空掃除機を使用する。

3) ワックス剥離洗浄

使用ワックス・床材に応じた剥離剤を使用し、ワックスを完全に除去する。

なお、剥離剤使用後は、残存成分を水又は中和剤等で除去する。

4) ワックス塗布

ワックスの剥離後、水性樹脂ワックスを3～5層塗布する。なお、点検口の目地等に入り込んだワックスは除去すること。塗布後は必要に応じて送風機などを用い乾燥させる。

5) 整理整頓

清掃時に動かした備品類を元の位置に戻す。

4-2 床洗浄・ワックス補修

1) 備品整理 4-1 1) による。

2) 床除塵 4-1 2) による。

3) 表面洗浄・ワックス補修

表面洗浄もしくはスプレーバフ方式によりワックス皮膜を洗剤で洗浄し表面の汚れを除去する。洗浄後はワックスもしくは床維持剤を補修塗りする。塗布後は必要に応じて送風機などを用い乾燥させる。

4) 整理整頓 4-1 5) による。

4-3 床洗浄

1) 備品整理 4-1 1) による。

2) 床除塵

床面をドライモップ又は自在ボウキなどを用いてなるべく埃を立てずに除塵する。また、必要に応じて真空掃除機を使用する。

3) 床の清拭

床面を水又は中性洗剤を含んだウエットモップで清拭する。

4) 洗浄

床面をポリッシャーまたはデッキブラシで洗浄する。洗浄後はモップや水切りなどで残った汚れや洗剤分を除去し、必要に応じて送風機などを用い乾燥させる。

5) 整理整頓 4-1 5) による。

4-4 カーペットクリーニング

1) 備品整理 4-1 1) による。

2) 床除塵

パイルを起こすようにしながら真空掃除機をかけ、ごみや埃を吸引除去する。

3) シミ抜き

シミの種類に応じたシミ取り洗剤を用いシミ抜きを行う。

4) 洗浄

ポリッシャーなどを使用しシャンプークリーニングを行う。また、残留洗剤を除去するためリンサーなどを使用してリンス処理を行う。洗浄後は必要に応じて送風機などを用い乾燥させる。

5) 整理整頓 4-1 5) による。

4-5 ガラス洗浄

1) ガラス除塵

ガラス面の埃を雑巾等で除去する。

2) ガラス洗浄

ガラスクリーナーを吹き付け、ワイパーで拭き取る。なお、窓枠の下などにたまった洗剤分は雑巾などで拭き取る。

* 注意

作業は雨天の日を避け、昼間に行うこと。

4-6 照明器具清掃

1) 器具除塵

必要に応じてモップなどで器具表面の除塵を行う。

2) 水拭き

洗剤液を含んだ雑巾等を用いて、蛍光管、反射板などを拭き上げる。

4-7 網戸清掃

1) 網戸取り外し

網戸を取り外して屋外の指定場所まで搬出する。

2) 洗浄

水又は洗剤を用いて網・枠などを洗浄する。

3) 網戸取り付け

水分を除去した後、網戸を取り付ける。

4-8 壁・天井等高所清掃

1) 除塵

壁面の上部、廻り縁、天井、防煙垂壁、天井吊下サイン等をモップなどで除塵する。

2) 清拭

壁面の上部、廻り縁、天井、防煙垂壁、天井吊下サイン等を洗剤液を含んだ化学繊維クロスなどで清拭する。

4-9 空調吹出・吸込口清掃

1) 除塵

アネモスタット、ガラリ、金網など金具の表面及び内部をモップなどで除塵する。

2) 清拭・洗浄

洗剤液を含んだ雑巾などで表面及び内部を拭き上げる。

- ・取り外し洗浄（脱着可能なもの）
- ・洗剤液による清拭（枠及び脱着不可能なもの）

4-10 敷地内清掃

1) 堆積物除去

雨水溝、雨水会所の土砂等堆積物及びごみを除去する。

2) 除去物処理

除去した土砂等堆積物は敷地内の指定場所に搬出し、ごみは3-7 ごみ処理に準じて処理する。

4-11 建物外部清掃

1) 堆積物除去

屋上、ベランダ、光庭等建物外部の土砂等堆積物・雑草及びごみを除去する。特にルーフドレイン・排水溝廻りは詰まりが生じないように入念に行うこと。

2) 除去物処理 4-10 2) による。

5. 詳細作業方法

5-1 基本的注意点

- 1) 清掃時にちりや埃を飛散させないように注意する。
- 2) 清掃は同一区域内であっても清潔な部位から汚染度の高い部位へ、また、高所から低所へと順に行う。
- 3) 清拭は一方向に拭き取り、用具を往復させない。また、原則として風上から風下側へ、また、部屋の奥から出入り口方向へと順に行う。
- 4) 各部屋の清掃が完了した際は、清掃時に着用した手袋は必ず外してから次の作業に移る。また、手袋を着用したまま壁や手摺りなど

不必要な部位に触れないよう注意する。

- 5) 清掃後は必ず衛生的手洗い（手指衛生）を行う。
- 6) 血液・体液などで汚染された部位は、それらをペーパータオル等で拭き取るなど物理的に除去した上で消毒薬を用い清拭する。なお、作業時は必ずプラスチック手袋を着用し、作業後は使用した手袋及びペーパータオルなどを感染性廃棄物として処理する。

5-2 床清拭方法

- 1) 清潔・準清潔・一般清潔・汚染管理区域（レベルⅡ～Ⅴ）の病室
一度使用したモップヘッドを清拭作業時に濯がず、次々と新しいモップヘッドと交換し、清拭用バケツに浸して清拭していく。（清拭用バケツには使用済みのモップを浸漬しない）なお、モップヘッドの汚れに関わらず、1室で1枚以上のモップヘッドを使用する。
- 2) 清潔・準清潔・一般清潔・汚染管理区域（レベルⅡ～Ⅴ）の病室以外及び一般区域（レベルⅥ）・汚染拡散防止区域（レベルⅦ）
一度使用したモップヘッドを清拭作業時に濯がず、新しいモップヘッドと交換し、清拭用バケツに浸して清拭していく。（清拭用バケツには使用済みのモップを浸漬しない）なお、汚れたモップヘッドで汚染を拡大しないよう適時モップヘッドは取り替える。

5-3 床以外の清拭方法

- 1) 清潔・準清潔・一般清潔・汚染管理・汚染拡散防止区域（レベルⅡ～Ⅴ・Ⅶ）
1室毎に清拭に使用する化学繊維クロスなどの用具を取り替えて作業を行う。
なお、共用部分等広い面積の清拭を行う時は適時用具を取替えながら清拭する。
- 2) 一般区域（レベルⅥ）
前記1)による他、1組の化学繊維クロスなどの用具を使用して清拭する方法としても構わない。

5-4 清掃用具の使用方法

- 1) 1. 1-1 表1の区分に基づき使用する清掃用具の色分け表示を行い、異なる区域間の混用を避ける。また、原則として同一の区域内で使用する用具は同じ色で統一する。（色分け表示：（白）清潔・準清潔区域、（青）一般清潔区域、（赤）汚染管理区域、（緑）一般区域、（黄）汚染拡散防止区域など）
- 2) 種類の異なる洗剤又は消毒薬を使用する場合、モップヘッドなど、洗浄液が接触する用具はそれぞれ専用のものを使用する。

3) 床以外の除塵・清拭用具の使用方法

モップ・化学繊維クロス・雑巾などの除塵・清拭用具は、床面から概ね50cmより上部を上拭用、下部を下拭用として使い分ける。なお、備品類は本体を上拭、脚・架台などを下拭として区別する。

5-5 清掃用具のメンテナンス

- 1) 使用後のモップヘッドやクロスなどは、直ちに洗剤で洗濯・水洗いし、遠心脱水して速やかに乾燥させる。なお、汚染管理区域の清掃を行った場合など必要があれば消毒を行う。消毒する場合には1.0%次亜塩素酸ナトリウム液に30分間以上浸漬して行う。
- 2) 上記1)以外の用具についても用具の材質・使用場所に応じて適切な洗浄・消毒を行う。
- 3) 清掃用具は、常に乾燥状態を保つようにする。

なお、一般清潔区域（レベルⅣ）で使用する清掃用具は、原則として委託者の指定する場所で集中管理する。

5-6 消毒薬の使用方法

清拭には特記無き限り消毒薬を使用しない。ただし、血液・体液などで汚染された部位及び病棟管理者などから指示された特定の部屋については、指定された消毒薬を事前に用意し清拭する。病棟等の消毒ボトルは使用しない。

5-7 ガウンテクニック

清潔区域・準清潔区域・汚染管理区域での作業を行う際は、委託者の指示に従い入退室時のガウンテクニック・手洗いなど区域の特性に応じた適切な処置を実施すること。

5-8 感染症病室及び陰圧診察室における日常清掃

- 1) 看護師の指示に従いガウンテクニックを実施する。
- 2) 清掃手順は、3-3 汚染管理区域（レベルⅤ）の作業要領によるが、手が触れる環境表面については第4級アンモニウム塩または消毒用エタノール等アルコール系消毒薬で清拭する。なお、ごみは、委託者が支給する専用のビニール袋に回収した上で一般のごみとして取り扱う。ただし、血液・体液が付着したものは、感染性廃棄物として処理する。
- 3) 当該病室等の作業後は必ず衛生的手洗いを実施する。

6. 清掃資機材

6-1 清掃用具

使用区域に応じて色分けした専用の用具とし、耐食性・耐摩耗性に優れ糸くず等の発塵が少ない製品であること。なお、清潔区域（クラスⅡ）～汚染管理区域（クラスⅤ）で使用する清掃用具は下記基準も満たすこと。

1) カート

衛生的かつ効率的に作業を進める事が出来るよう、区域に応じて清掃用資機材が搭載できるカートを使用する。

2) モップ

① 床除塵用

本体は金属など木製以外とし、ディスポーザブルの除塵クロスを取り付けるタイプの製品とする。

② 床清拭用

本体は金属など木製以外とし、モップヘッドはオートクレーブ滅菌に耐えうる製品とする。

③ 壁・備品除塵用

化学繊維製のハンドモップとする。

3) クロス

① 除塵用

化学繊維製の除塵クロス又はディスポーザブルの除塵クロスとする。

また、一般区域においては、化学繊維製の除塵クロスなどで随時洗浄しながら使用するのも可とする。

② 清拭用

化学繊維製の除塵クロスとする。なお、オートクレーブ滅菌に耐えうる製品が望ましい。

4) 真空掃除機

高性能（H E P A）フィルター付きの真空掃除機とする。

6-2 清掃用資材

1) 消毒薬

① 血液などの清拭用

1.0%次亜塩素酸ナトリウム液を使用する。

② その他の清拭用

特に消毒薬の指定がない場合は下記の薬剤を使用する。

a. 床面の清拭用としては、洗浄効果のある消毒薬として塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウムなどの第四級アンモニウム塩、塩酸アルキルジアミノエチルグリシンなどの両性界面活性剤を使用する。

b. 床面以外については、0.2%塩酸アルキルジアミノエチルグ

リシン液、0.2%塩化ベンザルコニウム液または0.2%塩化ベンゼトニウム液などを使用する。なお、人が直接触れる部分については必要に応じて消毒用エタノールなど、アルコール系消毒薬で清拭する。ただしアルコールには可燃性があり、また塗装面を侵すこともあるので注意して使用する。

- c. 洗浄便座のノズルについては、多目的除菌洗剤または、200ppm 次亜塩素酸ナトリウム液を使用する。

③ 作業前後の手指の消毒用

消毒用エタノール・エタノール含有速乾性手指消毒薬などアルコール系消毒薬を使用する。

2) 洗剤

原則として対象物に対し腐食性のないものを使用する。なお、部位別の洗剤の使用基準は下記による。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| ① 床（カーペット・天然リノリウム・タイル面除く） | 中性もしくは弱アルカリ性洗剤 |
| ② 床（カーペット） | 弱アルカリ性洗剤 |
| ③ 床（天然リノリウム） | 中性洗剤 |
| ④ タイル面 | アルカリ性もしくは弱アルカリ性洗剤 |
| ⑤ 磁器類（衛生陶器本体など） | 酸性洗剤 |
| ⑥ 壁・天井 | 中性もしくは弱アルカリ性洗剤 |
| ⑦ 備品類 | 中性もしくは弱アルカリ性洗剤 |
| ⑧ 清掃用具類 | 弱アルカリ性もしくはアルカリ性洗剤 |

3) 補充用消耗品類

- ① 手洗い用水石鹼液
- ② トイレットペーパー（ソフトシングルタイプ：J I S 準拠品）
- ③ ごみ袋・汚物入れ用ごみ袋
（ただし、市指定ごみ袋、廃プラスチック等産業廃棄物及び感染症患者用のごみ袋は施設管理者から支給する）
- ④ 産業廃棄物用表示ステッカー（施設管理者から支給する。）
- ⑤ 感染性廃棄物容器及びバイオハザードテープ（施設管理者から支給する。）
- ⑥ ペーパータオル（施設管理者から支給する）
- ⑦ 手指の殺菌・消毒剤（施設管理者から支給する）

7. 品質管理

7-1 品質管理

国際標準化機構（ISO）制定の品質保証規格（ISO9001:2015）に基づき行うこと。なお、特に下記の点に留意して品質の維持向上に努めること。

- 1) 委託仕様を満たす業務水準を維持するため、仕様書に基づき作業を標準化し、SDCA(*)サイクルに基づき品質維持活動を行うこと。

* Sとは「標準(スタンダード)」、Dとは「実施(ドゥ)する」、Cとは「確認(チェックする)」、Aとは「処置(アクト)する」ことをそれぞれ意味する。

- 2) 業務水準をよりよい水準に引き上げるため、目標設定を行いPDCA(*)サイクルに基づき改善管理活動を行うこと。なお、改善活動によって改善がなされ、新たな作業標準が仕様書の規定と合致しなくなった場合は、委託者と協議を行い、その指示に従うこと。

* Pとは「計画(プラン)する」、Dとは「実施(ドゥ)する」、Cとは「確認(チェック)する」、Aとは「処置(アクト)する」ことをそれぞれ意味する。

7-2 作業の点検方法

定期的に責任者が委託対象箇所を巡回し、日常清掃・臨時清掃については各業務の作業状況・出来映えを、また定期清掃については併せて進捗状況を点検し、品質向上に努めること。なお、巡回点検回数は作業項目に応じて下記の範囲で行い、点検結果を施設管理者に報告すること。ただし、院内の便所の巡回点検回数については、複数回とし、清潔な状態を保つよう努めること。

- 1) 1回/日 日常清掃、臨時清掃
- 2) 1回/週 日常清掃、定期清掃
- 3) 1回/月 定期清掃
- 4) 1回/3ヶ月 定期清掃

7-3 施設管理者との協議

- 1) 月例連絡会(1回/月)

受注者は、施設管理者と院内各委託業者との定例会議に出席し、業務内容についての確認、調整、問題解決を図る。

- 2) 院内感染防止対策委員会(1回/月)

受注者は、必要に応じ院内感染防止対策委員会に出席して、清掃・消毒等の技術の改善方法などを各部門の代表者と討議し、必要に応じて作業方法の見直しを行い院内感染防止に取り組む。

- 3) その他(施設管理者の指示による)

その他、施設管理者の指示により衛生管理に関する会議等に参加し、意見交換、衛生管理に関する助言などを行う。

8. 教育訓練

8-1 教育訓練内容

1) 受注者は、当該業務の従事者に OJT（日常職務に基づいた訓練）及び OffJT（職務外訓練）を計画的かつ効果的に行い、業務に必要な知識、技能、問題解決能力及び態度を習得させること。また、責任者・副責任者については、上記の他、特に OffJT を中心とした教育を行い衛生管理全般にわたる知識の向上に努めること。また、これら教育訓練の内容及び実施回数は下記基準による。

- ① 技能・技術向上に関する事。 (4 回／年以上)
- ② 衛生管理及び安全管理に関する事。 (4 回／年以上)
- ③ 感染等に関する事。 (2 回／年以上)
- ④ 接遇、人権等に関する事。 (2 回／年以上)

* 注意

上記研修には標準作業書の記載事項、患者の秘密の保持、また責任者については、医療法、医師法等の医療関係法規及び労働関係法規に関する事項を含むこと。

2) 受注者は、直接当該業務に必要な教育訓練以外に、災害時（火災・地震等）に備えた教育訓練を年間 1 回以上実施すること。なお、これについては、委託者の承諾を得た上で他の院内委託業者と合同で実施しても構わない。

8-2 報告

- 1) 受注者は、教育訓練の年間計画を作成し書面で委託者に報告すること。
- 2) 受注者は、実施した教育訓練の内容、結果等について、書面で速やかに委託者に報告すること。

9. 清掃実施基準表

9-1 箕面市立病院

箕面市立病院本館及びリハビリテーションセンター・附属棟については別表①*に基づき業務を実施する。

9-2 医師住宅

医師住宅については別表②*に基づき業務を実施する。なお、業務の対象は共用部及び委託者が指示する空住戸とする。

* 各別表中、床仕上げの略号は表 2 に示すとおりとする。

表 2 床仕上げ略号

略 号	床 仕 上 げ
R C	コンクリート
M O	モルタル
W P M	合成樹脂塗膜モルタル防水
F	フローリング
T C	タイルカーペット
T C (O A)	タイルカーペット (フリーアクセスフロア)
F C	カーペット
N P C	ニードルパンチカーペット
V S	塩ビシート
N W V S	ノーワックス塩ビシート
G S	長尺ゴムシート
L	長尺シート
L N	天然リノリウム長尺シート
V T	ビニル系タイル
T	タイル
T F	テラゾー
U B	ユニットバス
U S	ユニットシャワー
D P	防塵塗料塗床
F P	合成樹脂塗床

箕面市立病院
清掃業務仕様書(別表①、②)

令和2年11月1日改定

箕面市立病院

別表② (医師住宅)

[illegible]